

Q & A

Q 生ごみは、魚・骨など何でもいいですか？ 又、土になりにくいものは？

- A** ◎ 最初は、「野菜ごみ」だけの堆肥づくりをおすすめします。
- ◎ 水分の多いスイカやメロンの皮、固いタケノコの皮、トウモロコシの芯などは、パスした方がラクチンです。
 - ◎ 玉ねぎの皮、トウモロコシの皮などは時間がかかりますが、微生物は切り口からよく食べるので、細かくすればOK！
 - ◎ 魚の骨などは、秋になったら少しずつチャレンジしてみてください。

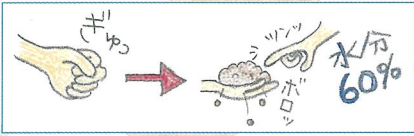
Q 虫の発生を防ぐには？

- A** ◎ 生ごみは、できるだけ乾き気味に、ぬかも少なめにします。
- ◎ 生ごみと土を混ぜた後は、いつも多めに土をかぶせます。
 - ◎ 葉・皮等に生みつけられた卵など自然発生もあるので、完全に防ぐのは難しいです。
 - ◎ 夏は無理をしないで、お休みをした方が良いです。

Q 発泡スチロール箱ではなく、ダンボールや土のう袋でもできますか？

- A** ◎ できますが、発泡スチロールは、雨に当たっても水が入りにくく、密閉できるので虫の侵入を防ぎ、丈夫で、狭いところでも重ねることができます。特に、断熱性があるので、冬も発酵が進みます。

Q 水分について？

- A** ◎ 生ごみを混ぜた時の水分が60%になるようにしてください。ぎゅっと握ると形ができて、指ではじくと崩れる感じが60%の日安です。
- 
- ◎ 水分が多いと臭気がやすいので、そういう時は乾いた土を入れます。また全体が乾きすぎると、発酵が進みません。
 - ◎ 生ごみを貯めていく時は、なるべく水分を入れない様にし、生ごみに混ぜる土はかわき気味にしておきます。

Q 置き場所は？

- A** ◎ ぬかあえは、台所の日の当たらない室内。発砲スチロール箱は雨の当たらない屋外。

Q 土は毎日混ぜますか？

- A** ◎ 月に1回位のペースでも大丈夫です。

Q 乾燥ごみについて？

- A** ◎ 生ごみをネットやざる、生ごみカラットを使い、ひたすら天日・冷蔵庫などでかわかします。
- ◎ 乾燥ごみを使って堆肥を作る時には、土に混ぜる時に、少しずつ水を加えます。

Q 完熟堆肥の使い方

- A** ◎ 古土にその2割以下の堆肥をよく混ぜてプランターに使って下さい。植物の様子を見ながら、入れすぎないように。

Q 庭に生ごみをそのまま入れてもいいですか？

- A** ◎ 庭木などの根が届かず、排水のよい所をえらんで、深く掘り、生ごみは土を混ぜながら入れます。最後に、犬猫のいたずらから守るために、毎回しっかり土をかぶせておきます。

★『生ごみと土』の量・質・水分保有量・季節等の条件により発酵過程はさまざまです。
生ごみの力と、微生物を信じて、出来上がりを楽しみに待ちましょう!!